

会議の経過	
開会年月日時刻	令和4年12月21日(水) 午後3時00分
閉会年月日時刻	令和4年12月21日(水) 午後4時29分
会議の場所	館林市役所 501AB会議室
会議次第	
<ol style="list-style-type: none">1. 開会2. 会議録署名委員の指名3. 前回会議録の承認4. 教育長事務報告5. その他6. 閉会	

会議の経過

出席委員	<p>第1番 堀 口 哲 哉 第2番 木 戸 浩 之 第3番 栗 原 昇 第4番 川 島 健 治 第5番 金 子 千 秋</p>
欠席委員	<p>第1番 第2番 第3番 第4番 第5番</p>
提案説明のため出席した者	<p>教育長 川 島 健 治 教育次長 始 澤 勝 也 教育総務課長兼学校給食センター所長 武 井 邦 晴 生涯学習課長 廣 澤 篤 行 参事兼学校教育課長 井 戸 健 二 文化振興課長 中 村 豊 スポーツ振興課長 高 橋 一 哲 向井千秋記念子ども科学館長 石 崎 治 図書館長 黒 澤 文 隆 総括係長 折 原 嘉 和 書記 横 山 瑠璃子</p>

会議の経過

教育長

それでは、定刻になりましたので、館林市教育委員会定例会を開会いたします。
(午後3時00分)

本日の日程は別紙のとおりです。

次に、日程第2 会議録署名委員を指名します。

今回の会議録署名委員は、1番 堀口委員、2番 木戸委員を指名いたします。

次に、日程第3 前回会議録の承認については、後日読んでいただき承認するものとしてよろしいでしょうか。

(委員から「異議なし」の声あり)

教育長

異議ないものと認め、そのようにいたします。

次に、日程第4 教育長事務報告をいたします。

一般事項(1) 館林市議会令和4年第4回定例会が、12月2日から12月15日まで行われました。一般質問では、10名の議員が質問を行いました。教育委員会関係では5名の議員から質問を受け、このうち、柴田議員、斉藤議員については私から、池森議員、田辺議員については教育次長から、岩上議員については私と教育次長の2人から答弁いたしました。

柴田議員からは「本市の多文化共生及び日本語教育推進法の現在の状況について」の質問を受け、外国にルーツを持つ児童や日本語学級、日本語指導助手の現状や今後などについて答弁いたしました。斉藤議員からは「コロナ禍における地域活性化について」の質問を受け、公民館の活動やコミュニティセンターへの移行、奨学金の現状や給付型奨学金に関する考えなどについて答弁いたしました。池森議員からは「観光施策の推進と日本遺産の活用について」の質問を受け、日本遺産推進事業の現状や構成文化財の案内板設置に関する考えなどについて答弁いたしました。田辺議員からは「学校給食について」の質問を受け、近隣自治体の現状や完全無料化に向けた検討、更にはオーガニック化に関する考えなどについて答弁いたしました。最後に、岩上議員からは「中学校運動部活動の地域移行について」と、「本市小中学校における1人1台端末環境(タブレット学習)の取組について」の2点について質問を受けました。部活動の地域移行に関しましては、現状や指導者の確保などについて、タブレット学習に関しましては、児童生徒や教員のICT活用能力の育成・向上や、今後の整備計画などについて、それぞれ答弁いたしました。

私からの報告は、以上でございます。

続いて、教育委員会各課の処理事務報告ですが、議案書に記載されている

会議の経過

<p>教育総務課長 教育長 教育総務課長</p>	<p>事柄について補足説明等必要なものがありましたら、説明をお願いします。何かございますか。</p> <p>はい、教育長。</p> <p>はい、教育総務課長。</p> <p>それでは、議案書35ページをご覧くださいと思います。先月の定例会におきまして、栗原委員より、表の施設見学部分にある実績が0人ということは行事報告にある施設見学会とは違うものなのか、という趣旨のご質問をいただきました。それに対しまして、実績の記載ミスであると申し上げてしまいましたが、正しくは、施設見学というのは見学時に試食をされた人数を意味するものでございました。お詫び申し上げ、訂正いたします。申し訳ございませんでした。表記が紛らわしいため、今回の報告のように「試食（施設見学）」と改めさせていただきました。今回も、34ページの11月行事報告にございますとおり、家庭教育学級や公民館の子育て講座等のたくさんの社会教育関係団体が、もちろん学校の授業もそうですが、給食センターへ施設見学に来ていただいております。皆さん試食を希望されますが、コロナ禍でもございますので、一般の市民向けに試食はご遠慮いただいているという現状が続いております。ただ、施設見学に来られた皆さんは、実際に自分の子どもたちが食べる給食がこういうところで作られているとご理解をいただく良い機会になっているということです。しばらく試食はできないかもしれませんが、引き続き見学の方は受け入れていきたいと考えているところでございます。以上でございます。</p>
<p>教育長 生涯学習課長 教育長 生涯学習課長</p>	<p>ほかにございますか。</p> <p>はい、教育長。</p> <p>はい、生涯学習課長。</p> <p>議案書4ページ、1月行事の「令和5年館林市二十歳のつどい」につきまして、ご説明させていただきます。令和5年の館林市二十歳のつどいにつきましては、令和5年1月8日（日）館林市文化会館カルピスホールにおいて開催いたします。令和4年4月1日より改正民法が施行となり、成年年齢が18歳に引き下げられたことに伴い、今回より成人式を「二十歳のつどい」と改名して開催いたします。従前同様、今年度20歳を迎える方を対象といたします。具体的な生年月日は平成14年4月2日から平成15年4月1日となり、現時点で747人が対象と捉えております。式典の実施方法ですが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和4年に引き続き、卒業中学校別に2部制で開催したいと考えております。それぞれ</p>

会議の経過

	<p>の受付開始時間は第1部が午前9時半から、第2部が正午からとなっております。また、式典会場は対象者及び来賓のみの入場とさせていただき、ご家族向けにはパブリックビューイングとして、今年度は市役所市民ホールに設置する予定でございます。私からは以上です。</p>
教育長	<p>そのほか、ございますか。 (事務局から「なし」の声あり)</p>
教育長	<p>それでは今回の事務報告について、質疑がありましたらお願いします。</p>
金子委員	<p>はい、教育長。</p>
教育長	<p>はい、金子委員。</p>
金子委員	<p>二十歳のつどいの説明について、出身校別に振り分けたというお話でしたが、館林市にそれ以降に入ってから来た子どもさんたちがどうなっているのかお聞きしたいです。</p>
生涯学習課長	<p>はい、教育長。</p>
教育長	<p>はい、生涯学習課長。</p>
生涯学習課長	<p>まず、第1部・第2部の2部制で行いますが、第1部は第三中学校、多々良中学校、特別支援学校、そして市外中学校を対象としています。おおむね300人程度を見込んでいる状況です。続きまして、第2部は第一中学校、第二中学校、第四中学校の約430名を見込んでいる状況です。なお、市外へ転出していらっしゃる方につきましては、事前に出席を希望される場合は、生涯学習課青少年係にご連絡いただければこちらから郵送でご案内を発送させていただいております。当日お見えになった方や案内等がない方につきましても、受付する窓口を設けておりますので、当日対応ができるような形で進めていこうという状況です。</p>
金子委員	<p>わかりました。ありがとうございます。</p>
教育長	<p>そのほか、いかがでしょうか。</p>
栗原委員	<p>はい、教育長。</p>
教育長	<p>はい、栗原委員。</p>
栗原委員	<p>2ページの教育総務課の報告にある後援に関する事で、赤羽公民館で「第2回子育てサポート企画SORANOMONシアター上映会&子育て講座」をされるようですが、どのようなことを行うのかお聞きしたいと思います。</p>
教育総務課長	<p>はい、教育長。</p>
教育長	<p>はい、教育総務課長。</p>
教育総務課長	<p>こちらは、SORANOMONシアター実行委員会が主催して行うものです。申請書類によりますと、正解のない現代社会で人とのつながりや会話</p>

会議の経過

	<p>が一層重要となり、コロナ禍で対面での会話も減っている現在、子ども同士、親子での対話、コミュニケーションのきっかけや気づきになることを目的として開催しているということです。「こどもかいぎ」という、子どもたちの日常を1年間にわたって撮影した88分ほどのドキュメンタリー映画を上映するという事です。映画が終わった後に子育て講座ということで、東部教育事務所の指導主事の先生による「わくわく子育てトークン」というワークショップスタイルの講座がありまして、そちらを開催していくということになっております。館林市教育委員会のほかに、市も後援することになっております。以上です。</p>
栗原委員	ありがとうございました。
教育長	そのほか、いかがでしょうか。
堀口委員	はい、教育長。
教育長	はい、堀口委員。
堀口委員	栗原委員のご質問部分と同じなのですが、2ページの1月7日キッズわくわくワークと、国際交流&イングリッシュキャンプについて、どのような内容なのか教えていただければと思います。
教育総務課長	はい、教育長。
教育長	はい、教育総務課長。
教育総務課長	<p>まず、キッズわくわくワークですが、実は9月25日にも開催されておりまして、今回で2回目ということです。9月25日の開催分につきましては、9月定例会で事後報告という形になってしまったのですが報告させていただいたところです。主催は株式会社ファジー・アド・オフィス、これは東京の新宿区に所在する会社として、事業内容が総合住宅展示場関係、それから広告代理関係、不動産、健康美容と手広くやっております。いろいろな場所にある住宅展示場を会場にして、子どもたちに職業体験をしてもらうということで企画されているところです。目的といたしましては、子どもたちが様々な専門家から直接学んで体験することで、職業を知り、将来について考える機会を提供していきたいということです。今回は館林警察署、自衛隊、それから群馬東武水道企業団、この辺りから参加が予定されているということで、それぞれ職業についてのちょっとした講話、あるいは実演、体験、それからパネルでの企画展示という内容で伺っております。わくわくワークについては以上です。次に、国際交流&イングリッシュキャンプですが、主催である宮城復興支援センターは事務所が仙台市にありまして、災害救援に携わる国内外のボランティア団体などと連携を図りながら、被災者救援や被災地復興活動を側面から支援することなどを</p>

会議の経過

目的として結成された非営利団体だということです。事業目的は、震災やコロナ禍における子どもたちの心のケア、災害の風化防止や防災意識の向上、それから国際交流の促進などを目的として開催しております。2012年夏に宮城県で第1回が初めて開かれたそうで、ちょうど震災の翌年辺りでしょうか、そういった絡みがあるそうです。この事業につきましては、文部科学省、外務省、スポーツ庁、復興庁、県教育委員会、各市教育委員会などが後援しております。申請書類の附属資料を見ますと、全国津々浦々の自治体及び教育委員会が後援されているということです。参加費は、被災地から避難してきた避難生活を強いられている児童や児童養護施設に入所されている児童などにつきましては無料になっております。一般参加の場合は、1泊2日で2万7,300円ほどかかるキャンプだそうです。令和4年度は9月3日・4日に赤城の国立赤城青少年交流の家で行われたのですが、確認しましたら定員110名のところ、90人の小学生が参加されたと伺っております。大人のスタッフの中に外国人ボランティアの方が数十人いらっしゃるそうです。大体大学生や大学院生、留学生がほとんどだと思っておりますが、そのような外国人ボランティアの方々とともに英語を使った様々なアクティビティを用意しているということです。キャンプファイヤーや星空観察、野外ゲーム、あるいはクイズ、この辺りのアクティビティが全て英語によって成り立っているというようなことでございます。また、復興支援センターが行うものですから、1泊2日の研修キャンプの中で防災についても学ぶ機会があるそうです。閉校式には、グループごとにグループの代表となった児童が英語でキャンプの感想を述べる場面があるそうです。今回の後援につきましては、赤城だけでなく妙高高原で行われるキャンプについても後援申請がございまして、先日決裁を受けたところでございます。長くなりましたが、以上でございます。

堀口委員
教育長
木戸委員
教育長
木戸委員

わかりやすくありがとうございます。

そのほか、いかがでしょうか。

はい、教育長。

はい、木戸委員。

4ページです。1月予定の部分で上毛かるた大会が3年ぶりに開催されるとありますが、開催されるにあたって、かるたの練習を各育成会の中でこのような現状の中でできているのかというところを質問させていただきます。

生涯学習課長
教育長

はい、教育長。

はい、生涯学習課長。

会議の経過

生涯学習課長	<p>現在、コロナ禍というところで上毛かるた大会のそれぞれの参加者はこれまで育成会活動で練習を行ってきたところでございます。ただし、昨今の群馬県内の感染状況を見ていると、11月以降拡大しつつ、12月に入り更なる感染拡大が見られるような状況であることから、12月16日（金）に行われました、市子ども会育成団体連絡協議会文化部会におきまして、感染状況を鑑み、中止の決定をしたということでございます。</p>
木戸委員	<p>最近とても寒いので、感染を防ぐための換気と両立させるといのはかなり難しいとは思っておりましたので少し気になっていたのですが、中止になったのですね。わかりました。</p>
教育長	<p>そのほか、いかがでしょうか。</p>
栗原委員	<p>はい、教育長。</p>
教育長	<p>はい、栗原委員。</p>
栗原委員	<p>3ページの生涯学習課の報告にあるすすくサポート隊について、かなりの回数で行っていますが、郷谷公民館だと17名の参加、三野谷公民館だと2名ということで少し温度差があるので、今の成果と課題のようなものを聞かせていただければと思います。</p>
生涯学習課長	<p>はい、教育長。</p>
教育長	<p>はい、生涯学習課長。</p>
生涯学習課長	<p>現在、すすくサポート隊につきましては13名の方が市内5館、郷谷公民館、六郷公民館、三野谷公民館、渡瀬公民館、そして分福公民館で活動しております。すすくサポート隊は子育て経験のある方が集う子育てボランティアグループでございまして、経験に基づいたアドバイスや相談、母親たちの仲間づくりの手助けなどの子育ての支援をしております。11月実績が2人ということで、今年度の実績を振り返ってみますと、令和4年4月が5人、5月が6人、6月は2人、7月は9人、8月は0人、9月は4人、10月は1人、11月は2人という状況になっております。参加者につきましては、特に予約等はせず、決まった時間の中で公民館に来ていただき、活動していただくような状況になっております。そういった中で、やはり参加者数が少ない状況もございまして、SNSや市の広報誌等を含め周知をしたいと考えております。あわせて、運営上の課題の一つとして現在13名のボランティアの方が活動されているところですが、年齢的に申し上げますと70代の方が13人中11人を占めているような状況です。そういった状況もございまして、後継者の育成という面につきましても努めてまいりたいと思います。以上でございます。</p>
栗原委員	<p>参加者同士の交流も大切だと思うので、1名や2名ですとなかなか交流が</p>

会議の経過

<p>生涯学習課長</p>	<p>できないのかなと思いました。</p>
<p>栗原委員 教育長</p>	<p>ケースによっては0回というのもありまして、そういった場合につきましては、ボランティア同士の交流と今後の活動の在り方ですとか、こんなメニューを今度やってみようですとか、そういった話の場を持っているような状況です。以上でございます。</p>
<p>栗原委員 教育長</p>	<p>ありがとうございます。 そのほかにいかがでしょうか。</p>
<p>金子委員 教育長</p>	<p>はい、教育長。 はい、金子委員。</p>
<p>金子委員</p>	<p>3ページの生涯学習課の行事に関する事で、11月8日から24日に開催した市民大学講座のことについてです。全部で5回あったと思いますが、各分野で活躍なさっている方たちのお話はすごく刺激になりました。コロナ禍でこういう機会が少なかったものですから、しばらくぶりに講演を聞かせていただいて、良い風に当たって、そして視野が広がったようなすごく良い気分で聞かせていただきました。その中で思ったのですが、講演者の方の隣に必ず手話通訳の方が付いていましたね。手話の動きというのは本当に細かで、顔の表情を見て人の話を聞いてそれをまた相手に伝えるという、とても重労働で頭も使う大変なことだと見ていたのですが、会場にどのくらいの聴覚障害者の方がお見えになっていて、その方たちの席はどうなっているのか気になりました。あれだけ細かな手の動きや顔の表情は席によっては見づらい所もあるのかなと、舞台正面の近い席で見ていただいた方が全体を掴めるのかなと思ったのです。そういうことの把握をしていらっしゃるのかということと、終わった後に皆さん帰りを急ぐのはわかりますが、高齢者や足の不自由な方たちもいらしたようなので、そういう人たちをかき分けて出て行くのは、見ていてどうなのかなと思いました。障害者の方などの優先席を設けて、その方たちが先にお帰りになってからというような対応もできたのではと思いました。もう1つ、会場を見ますとかなりの年配者が見えていましたので、あの時間帯の講演会で良かったのかなと思いました。高齢になると夜の自転車にしても車の運転にしてもだいぶ危ないですね。参加者が必ずしも高齢者とは限りませんが、そういう方々がたくさんいらっしゃるのでしたら、もう少し昼間の設定、お忙しい仕事をしていらっしゃる方もいるかもしれないので、土日の午後など明るいうちに、10月から11月は日が暮れるのもだいぶ早くなっていますから、そういう時間設定もした方が良いかなと思いました。講師の方のお話を聞きましたら、早い時間帯に館林市に足を運んでらっ</p>

会議の経過

<p>生涯学習課長 教育長 生涯学習課長</p>	<p>しゃるのですね。高齢者の方たちも早く来られるのでしたら、夜に講演を持ってくることもなかったのかなと、そういう点も考えていただければと思います。</p> <p>はい、教育長。</p> <p>はい、生涯学習課長。</p> <p>今回は2名の手話通訳の方が常駐されておりました、交代で手話を行っておりました。こちらにつきましては、社会福祉協議会を通じて派遣していただくのですが、1人の方に手話をやっていただく目安の時間がございまして、時間ごとに交代して通訳していただくような形になっております。当日は聴覚障害者の方が1名お見えになっておりました。やはり手話が見やすい場所が良いだろうというところもございまして、中央列から右側6列目の25番・26番と7列目の25番・26番を聴覚障害者用の席という形で設けさせていただきました。その他、閉会後の対応という形で、確かに我先に家路に急ぐようなところがあり、危ない状況も考えられることから、実行委員会とも相談しつつ高齢者の方や聴覚障害者の方、車椅子でお見えになった方等が優先的に退場していただけるような措置を検討していきます。また、若い方たちも見られるように市民大学の時間帯をもう少し変更しては、というお話がございました。そちらにつきましても、改めて実行委員会に話を持ち帰り検討させていただければと思いますので、よろしく願いいたします。</p>
<p>金子委員 教育長</p>	<p>よろしく願いいたします。</p> <p>そのほか、いかがでしょうか。</p>
<p>堀口委員 教育長</p>	<p>はい、教育長。</p> <p>はい、堀口委員。</p>
<p>堀口委員</p>	<p>議案書7ページ、西公民館の11月8日にほほえみ学級（現地学習）とありますが、どのような内容なのかを教えてくださいと思います。</p>
<p>生涯学習課長 教育長</p>	<p>はい、教育長。</p> <p>はい、生涯学習課長。</p>
<p>生涯学習課長</p>	<p>こちらは西公民館で行われております高齢者教室で、年11回の講座の中の1コマとして実施したもので、受講生23名中13名の方が参加されました。この日は深谷市の渋沢栄一記念館を見学しまして、その生涯と実績に関する資料等の見学を通じ、見識を深めたような状況でございます。また、鴻巣市の埼玉県防災研修センターにおきまして地震や暴風雨などの災害時の対処方法を体験学習してまいりました。以上でございます。</p>
<p>堀口委員</p>	<p>ありがとうございました。</p>

会議の経過

教育長	そのほか、いかがでしょうか。
木戸委員	はい、教育長。
教育長	はい、木戸委員。
木戸委員	11ページの補導員会運営事項の(5)「高崎市ヤングケアラーSOSについて」とありますが、館林市内におけるヤングケアラーの現状などは把握されているのでしょうか。また、把握されているとしたらどの程度いるのか教えていただければと思います。
生涯学習課長	はい、教育長。
教育長	はい、生涯学習課長。
生涯学習課長	ヤングケアラーの現状ということで、今回群馬県青少年補導センター補導委員会の連絡協議会主催の研修会の中で、補導員に対して、青少年が抱えている問題の一つとして高崎市の取組をご紹介していただいたような状況です。
学校教育課長	はい、教育長。
教育長	はい、学校教育課長。
学校教育課長	ヤングケアラーの児童生徒に関しての情報収集窓口としては学校教育課が担当になっておりますので、私の方でお答えさせていただきます。ヤングケアラーにつきましては、法令上の定義は今現在ではございません。本課としましては、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話を子どもが行っている、通常はお手伝いという形になると思いますが、その範囲を超えて子どもの年齢や成長の度合いに見合わない重い責任や負担、こういうことで一般的に考えられる子どもとしての生活体験が奪われたり、時には通学・睡眠時間が制限されたり、子ども自身の生活の大部分を家族のケアに充てるといったケースによって過度な負担や責任によって子どもの成長に影響が出るような状況、そういったところで捉えている現状がございます。そのような視点で考えたとき、そういった情報があれば学校教育課で収集して、こども課と連携を図りながらケアについて考えることになっていきますが、今時点ではヤングケアラーとして認定しているような状況はございません。
木戸委員	定義はないというお話がありましたが、アンケートといえますか、そういったものの中でいち早く現状が把握できるような体制をとっていただければと思います。
学校教育課長	以前の定例会で、学校では月1回学校生活に関するアンケートをとっているという話を申し上げたところでございます。こちらとしてはそういった情報をいち早く収集できるよう、発達段階に応じる形にはなりますが、そ

会議の経過

	<p>のアンケートの中で児童生徒に投げかけて、非常に繊細な問題ではありませんので、その扱いを十分に注意しながら情報を収集できるように定期的に努めております。</p>
木戸委員	ありがとうございます。引き続きよろしく願いいたします。
教育長	そのほか、いかがでしょうか。
栗原委員	はい、教育長。
教育長	はい、栗原委員。
栗原委員	関連しまして、補導委員会が積極的にネットの研修会等に参加しているようですが、学校等でその成果を生かす場面は具体的にあるのでしょうか。
生涯学習課長	はい、教育長。
教育長	はい、生涯学習課長。
生涯学習課長	<p>近年、ソーシャルネットワークワーキングサービスにおける誹謗中傷や仲間外れなどが中学生や高校生を始めとして大きな社会問題となっていることから、補導活動の一環として理解を深めようと今年度より始めたものでございます。11月19日(土)は青少年育成推進連絡協議会と合同で群馬県子どもセーフティーネットインストラクターの方を講師にお招きし、研修会を行った次第でございます。また、青少年育成推進連絡協議会におきましては、群馬県が推奨している「おぜのかみさま」、「お」は写真を送らない、「ぜ」は絶対会わない、「の」は個人情報を書き込まない、「か」は悪口などを書き込まない、「み」は有害サイトを見ない、「さ」は出会いを探さない、「ま」はルールを守る、こういったものを啓発資料としまして、5月29日(日)におきましては、市子ども会育成団体連絡協議会主催による子ども会大会や、11月3日(木)から9日(水)まで市役所市民ホールにおきまして、「おぜのかみさま」のパネル等を展示しました。そのほか、これまで館林まつりにおきましてティッシュペーパーを配るなどの啓発を行っているような状況でございます。</p>
栗原委員	SNS上のトラブルも多いので、ぜひ今後も啓発活動をしていただければと思います。
教育長	そのほか、いかがでしょうか。
金子委員	はい、教育長。
教育長	はい、金子委員。
金子委員	22ページです。1月15日に第38回たてばやしスキー大会とありますが、これはスキー教室と違ってどこかスキー場に行って大会をやってくるということですか。どのようなことをやるのでしょうか。
スポーツ振興課長	はい、教育長。

会議の経過

教育長	はい、スポーツ振興課長。
スポーツ振興課長	こちらにつきましては、スキー大会として男子年代別8種目、女子についても年代別に3種目に分けまして大回転競技、タイムレースを実施いたします。また、年明け2月19日に開催されます県民スポーツ競技大会、群馬県都市親善スキー競技大会での予選を兼ねている大会となります。昨年までと若干変わった点がございますので、合わせて説明をさせていただきたいと思っております。昨年までは館林市単独で開催していましたが、今年度は富岡市、安中市、藤岡市が合同で開催しているスキー大会へ、館林市も参加させていただいて4市合同で開催する予定でございます。合同での市民スキー大会とならざるを得なかった理由としまして、会場の変更がございました。こちらにつきましては、昨年まで利根郡片品村にあるオグナほたかスキー場を使用していたのですが、令和4年度からの貸出しはできないというようなお話を受けて、スキー場の開催場所を探していた中で、今回3市が合同で開催するスキー大会に加えていただくことになり、今年から会場が軽井沢のプリンスホテルスキー場に変更になったという状況でございます。以上です。
金子委員	そうしますと、記載されている人数は4市一緒になって50人ということですか。
スポーツ振興課長	これは館林市のみの参加者です。昨年度につきましては15人でした。令和元年度、2年度などは中止ということで、その時は21人の参加でした。どうしても冬のスポーツということで競技人口が少ない状況でございます。また、現在募集中のため、一応表記は50名とさせていただいているということでご理解いただければと思います。
金子委員	この大会に年齢制限などはあるのですか。
スポーツ振興課長	男子の部では小学生男子から10歳代、20歳代、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代、70歳代以上の8種目に分かれておりまして、女子につきましては小学生の女子、29歳以下、30歳以上の3種目に分かれての競技となっております。
金子委員	細かく分かれているのですね。そうすると、そちらに館林市の人が必ずしも参加できるということはないわけですね。
スポーツ振興課長	昨年の状況ですと、例えば小学生女子については1名であったり、部門によっては参加者がいなかったりということもあります。昨年は小学生女子の部、中学生女子の部、一般の女子、あとは男子が40歳、50歳、60歳代の3種目での大会となっております。以上です。
金子委員	ありがとうございます。わかりました。

会議の経過

教育長	そのほか、いかがでしょうか。
堀口委員	はい、教育長。
教育長	はい、堀口委員。
堀口委員	15ページの(5)児童生徒の不登校の状況ですが、これを見ますと小学生の不登校が昨年度の同時期と比べますと、顕著に増加しております。冬休みを迎えるにあたりまして、どんな対応が必要なのかお聞かせ願えればと思います。
学校教育課長	はい、教育長。
教育長	はい、学校教育課長。
学校教育課長	11月はおっしゃるように小学生の不登校数が昨年度に比べ増えているわけですが、過日、12月上旬に生徒指導主事会議を設けまして、冬季休業中における児童生徒の指導について、中学生がメインになったわけではありますが、大きな視点から学校の担当の方へ指導はしたところでございます。もちろん小学生も含めて、特に冬休みを迎えるにあたって大きく3点、学校には話をしております。1点目は個別の対応。これは生活上心配な児童生徒又は保護者を含めて、面談等を通して冬休み中の過ごし方、その中には規則正しい生活習慣というところもございしますが、そういったことについての確認を行っているところです。2点目は、これは夏季休業中もそうだったのですが、つながりを保つということ。今は1台端末もございしますので、オンラインでの健康観察、あるいは今申し上げました冬休み中の過ごし方や課題等の進捗状況を電話連絡したり、学校や教員によっては年賀状等を出したり、そういったやり取りを行ってつながりを保つという意味でございします。3点目は、これは休業明けの不登校の未然防止にもつながるのですが、冬休み中の宿題や課題等が児童生徒の過剰負担にならないように配慮をお願いしているところです。あわせて、休業中なかなか課題が仕上がってこないことを理由とした登校渋りや欠席が起こることのないように必要に応じた支援を行い、休業明けの学校生活がスムーズに行えるようお願いしているところであります。以上です。
堀口委員	ありがとうございます。今3点お聞きしまして、それぞれの事例等があると思いますが、それぞれに細かな対応をお願いできればと思います。
栗原委員	はい、教育長。
教育長	はい、栗原委員。
栗原委員	今お話にあったように、小学校の11月が52名と過去最多ということで、この子供たちが3年後には中学生になるわけですね。かなり厳しい数字かなとは思いますが。具体的には何年生が増えているのかということと、

会議の経過

学校教育課長
教育長
学校教育課長

今冬休み中の対応についてはお聞きしましたが、3学期にこんなことをやってみようなど、そういったことがあれば教えていただきたいと思います。

はい、教育長。

はい、学校教育課長。

4月当初と比べた場合に、今年度については特に高学年が増えておりまして、女子の方が男子に比べて増えているような傾向がございます。令和3年度と比べても、やはり男子よりも女子の方が増えている傾向が本市としてはうかがえるような状況であります。また、3学期の不登校への対策というところで、本課の方で考えていることが3点ございます。まず1点目は、これは3学期を問わず今年度当初から学校教育課として学校に呼びかけているところですが、自己有用感、それから心の居場所づくり、これについては引き続き3学期も学校に働きかけてまいります。子どもの成長をどう見取り伝えていくのか、関わりを持つのか。これらにつきましては過日、学校不適応対策会議というのを設けました。参加者は各小中学校の教育相談主任や心の教室相談員や本市教育研究所の相談員で、自己有用感や心の居場所づくりということについて学校の取組の情報交換を行いまして、参考となるものを3学期にぜひ各校で実践していただきたい、そういったお願いもしているところであります。2点目ですが、今申し上げた心の居場所づくりとも関連しますが、それぞれの学校で人との関わり、そういったことを踏まえた学校、それから学級づくりを引き続き学校に話をしたいと思っております。3点目ですが、不登校児童生徒の個に応じた多様な社会的自立に向けた支援の充実ということを考えております。不登校児童生徒の支援の目標というのは、国のいろいろな資料、あるいはその他の会報等を見ると、将来児童生徒が精神的にも経済的にも自立し、豊かな人生を送れるような社会的自立を果たすということが大きな目標として掲げられております。子どもたちの支援において、学校に登校するという結果のみを目標とするのではなく、個に応じた多様な社会的自立に向けた目標の幅を広げることが重要なのかなと考えております。これについては非常に難しいところではあります。例えばコミュニケーション能力が苦手だとすればそういったところを伸ばさなくてはいけないですし、ソーシャルスキル、人と接する上での大切なことを身につける必要があるお子さんについてはそういったところの支援、また、周りの大人や友達に対してSOSをどう出していくのか、いわゆる社会的自立に向けた目標の具体化、そういったことをすぐ一人一人にというのは難しいので

会議の経過

	<p>すが、個に応じた今後設定していく必要があるのかなと考えている次第です。以上です。</p>
栗原委員	<p>関連して、1人1台端末ということで、その辺りも活用しながらつながりを深めていただければと思います。また、小学校が増えてきたので、スクールカウンセラーは小学校に月1回か2回の訪問ですから、心の教室教育相談員が巡回型で訪問できる体制や予算等、そういったことも小学校に取り入れることができればと思います。</p>
学校教育課長	<p>ありがとうございます。おっしゃったような予算というところもありますが、こちらとしても委員からの要望として、様々な部分で今後検討・研究してまいりたいと思っております。</p>
教育長	<p>そのほか、いかがでしょうか。</p>
金子委員	<p>はい、教育長。</p>
教育長	<p>はい、金子委員。</p>
金子委員	<p>33ページ、③の在宅高齢者等配本サービスについて、待機利用者が今どれくらいいるのかということと、利用者はどのように本を選択して届けてもらっているのかお聞きしたいです。</p>
図書館長	<p>はい、教育長。</p>
教育長	<p>はい、図書館長。</p>
図書館長	<p>この制度は、自力で図書館への来館が困難な方のために図書館ボランティアの方が希望する図書を自宅まで配付し、返却本を回収するという制度でございます。現時点で、今年度利用されている方は5名でございます。どのような本を選定されるかということでございますが、利用登録申請時にまずご希望されるジャンル等を伺います。具体的に図書や著者を指名していただければそれをお持ちするのですが、そうでない場合には希望するジャンルを伺いまして、それに見合う本を用意してお届けして、この本が面白かったからまた同じ著者の方をお願いしたいという意向があれば、そういった形で配付して、そのサイクルを繰り返すというのがこの制度の現状でございます。以上です。</p>
金子委員	<p>わかりました。自分で読みたい本は何冊かそのジャンルの本を持って行って、この中からだったらどうですかというような提示をなさることもあるわけですね。</p>
図書館長	<p>持って行っての提示という方法ではなく、こちらから用意した本をお持ちして、読んでみたら面白かったので等、そういった感想を伺いながらの繰り返しになりますので、持って行くのはお貸しする本ということになりますかと思っております。以上です。</p>

会議の経過

金子委員	<p>図書館へ行くのは、棚にたくさんある本の中から自分で選ぶ喜びなどもあるので、希望のジャンルがあって何冊か提示して持って行けるのもいいのかなと個人的に思います。昔は移動図書館車というのがありましたよね。私たちが子育てをしていた時に移動図書館がよく学校の入り口などに来てくださっていたことがとてもありがたかったです。その時には自分で図書館に行く力もありましたし、時間もあつたので行ったり行かなかつたりでしたが、今この年齢になって周りを見てみると、やはり移動図書館があった方が便利だなと感じます。自分たちが本を読みたいと思っても、公民館に行けばある程度用意はされていますが、夕方車を運転して外に出ることがなかなか難しい中で、定期的に移動図書館のようなものがあると、今の時代の方がもしかして希望者が多いのではと思いました。読書機会がなくなったということが少し寂しいかなと感じます。</p>
図書館長	<p>移動図書館につきましては、かつては図書館の車が巡回して回っておりましたが、現在は貸出文庫ということで、公民館等の施設を訪問して本をお貸しするという形にさせていただいているところでございます。また、それぞれの方の本を選ぶ喜びもございますが、何冊か持って行きますとその本が読まれていない間、他の方が手に取れないといった少し難しい問題も出てまいりますのでその点は慎重に考えさせていただければと思います。インターネット等を利用される方は、その中の検索でどういった本があるか把握するのは可能かと思いますが、デジタルというのはやはり全ての方が利用できるものではございません。自治体DXといわれておりますが、瞬間的にデジタル化されるのではなく、デジタルの方もいれば実際に従来の方法で選書したい方もいらっしゃるのです、私どもは種類とすると幅広く対応するような形で良い方法を考えていければと、そのように進めさせていただければと思います。以上です。</p>
金子委員	わかりました。ありがとうございます。
教育長	そのほか、いかがでしょうか。
木戸委員	はい、教育長。
教育長	はい、木戸委員。
木戸委員	19ページ、1月の行事に令和4年度日本遺産「里沼」セミナー「日本遺産を活かしたまちづくり」とありますが、内容を教えてください。
文化振興課長	はい、教育長。
教育長	はい、文化振興課長。
文化振興課長	お手元に里沼セミナーのチラシを配付させていただいておりますので、そちらを見ながらご案内させていただければと思います。チラシにもありま

会議の経過

<p>木戸委員</p>	<p>すとおりに、日本遺産を生かしたまちづくり、こちらをテーマに宇都宮市、笠間市、行田市のそれぞれの日本遺産の取組をご紹介いただく予定となっております。この3市は比較的近隣で、宇都宮市と行田市は単独で日本遺産に認定されております。また、笠間市も近くの益子町と1市1町の認定で非常にフットワークが良いということもございまして、今後こちらの3市とも連携を視野に入れた取組が足がかりになれば、と思い、今回のセミナーを開催させていただきます。小ホールで定員80人ということで少しこじんまりとした印象がございしますが、YouTubeによるライブ配信を計画しております。日本遺産は全国から関心が高まっておりますので、ライブ配信とアーカイブ配信もさせていただきます。新しい試みとして全国に積極的に発信してまいりたいと考えております。以上でございます。児童生徒は学校教育の中で里沼というものを認知して成長していくと思っておりますが、ある程度年齢が上の方にも里沼の認識を深めていただければありがたいと思っております。</p>
<p>教育長</p>	<p>そのほかにもございますか。</p>
<p>栗原委員</p>	<p>はい、教育長。</p>
<p>教育長</p>	<p>はい、栗原委員。</p>
<p>栗原委員</p>	<p>同じページの報告ですが、今回も田山花袋の特別展を企画していただきありがとうございます。ただ、小中学生の利用がほとんどないということなので、可能かどうかはわかりませんが小中学生対象の田山花袋を理解するような企画展等はいかがかなと思いました。</p>
<p>文化振興課長</p>	<p>はい、教育長。</p>
<p>教育長</p>	<p>はい、文化振興課長。</p>
<p>文化振興課長</p>	<p>ご指摘のとおりでして、11月の児童生徒数が11人と少し残念な数字です。小中学生向けの展示といったご提案は大変参考になるご意見だと思っております。これまでも花袋の作品を小中学生にどう広めていこうかということで、いろいろなことやりました。例えば、子ども向けの作品を小冊子にまとめまして、それを6年生や中学生に配布させていただいたり、展示コーナーに小学生向けのワークシートを設置して活用してもらったり、いろいろなことをあの手この手でやってきたのですが、なかなか即効性がないというのが実情です。子どもたちに関心を持ってもらうというのは非常に重要なことでして、今後、やはり学校の出前講座の中で田山花袋を紹介させていただくような企画をこれからお願いしていこうかななどとスタッフで考えています。また、効果があるかなと思っていることは、学校にいる司書の先生と連携を図って花袋の人となりや作品を紹介するような</p>

会議の経過

	<p>パネルを作りまして、それを花袋コーナーという形で学校の図書室に設置してもらおうというのはどうだろうと今考えているところです。読み聞かせのボランティアグループにも花袋作品を読んでもらうことを考えています。これはすぐできるかと思っているのですが、各学校にいらっしゃる図書委員の児童生徒を文学館に招きまして、花袋の解説会を行うのもいいかなとも検討しています。いずれにしても、子どもたちに花袋の魅力をどう伝えていくかというのは大きな課題でして、この課題を克服するために様々な角度で検討してまいりたいと思っております。以上です。</p>
<p>栗原委員</p>	<p>田山花袋は大人でもなかなか読みづらいところもありますが、やはり花袋の人となり子どもたちにも知らせていくと関心が高まってくるのかなと思います。これからもいろいろ企画していただきたいと思います。ありがとうございます。</p>
<p>教育長</p>	<p>そのほか、いかがでしょうか。</p>
<p>堀口委員</p>	<p>はい、教育長。</p>
<p>教育長</p>	<p>はい、堀口委員。</p>
<p>堀口委員</p>	<p>33ページに図書館の施設見学とありますが、小学生が対象の場合、どのような見学をするのか教えていただければと思います。</p>
<p>図書館長</p>	<p>はい、教育長。</p>
<p>教育長</p>	<p>はい、図書館長。</p>
<p>図書館長</p>	<p>小学生を対象とする施設見学ということになりますと、目玉となりますのが一般の方へ開放していないバックヤードになります。子どもたちの反応が特に良いのは、バックヤードの中でも書庫でございまして、図書館の一般開放部分は2階建ての建物ですが、書庫は4階建て、4層構造です。そういったバックヤードを通ることと、これは館林市の特徴ですが、秋元文庫を始めとする筆を使って崩し字で書かれた和紙の本が大量にございます。館林市の図書館は歴史があって、こういう本があると具体的に示しますと、子どもたちは現物を見たことにより感動して帰り、施設見学をされた小学生の中には、その後図書館を利用される方も多いと聞いております。</p>
<p>堀口委員</p>	<p>今聞いただけでも面白そうだなと思います。図書館に行くきっかけづくりは、施設見学が一つ担っているのだなということを改めて理解しました。これからもよろしくお願いします。</p>
<p>図書館長</p>	<p>参考までに、バックヤードツアーでございまして、議案書32ページの11月行事に図書館フェスティバルというものがございまして。この中で11月3日に3回にわたり、延べ20人の方に一般の方対象のバックヤード書</p>

会議の経過

	<p>庫の見学会を実施いたしました。子ども用はケーブルテレビでも取り上げていただいております。なお、図書館フェスティバルにある98人というのは、個別の事業で報告をしていない事業の合計数でございます。こういったバックヤードツアーのほかに本の修理サービスやブックコーティング、その合計人数が98人でございます。以上でございます。</p>
<p>堀口委員 教育長</p>	<p>わかりました。ありがとうございます。 そのほか、いかがでしょうか。</p>
<p>堀口委員 教育長</p>	<p>はい、教育長。 はい、堀口委員。</p>
<p>堀口委員</p>	<p>資料にはありませんが、今テレビでも報道されている給食での黙食について、文科省から緩和されたというようなお話がありますが、本市においての給食時の黙食というのはどのような状況でしょうか。</p>
<p>学校教育課長 教育長</p>	<p>はい、教育長。 はい、学校教育課長。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>私の方からお答え申し上げます。11月29日付で文科省から通知がございまして、それを基に新聞やテレビ等の報道がなされたものと考えます。この通知の中では、飲食はなるべく少人数で黙食を基本とし、会話をする際はマスク着用を徹底することを促すとされていましたが、今般の変更により当該記述が削除されたこと、座席配置の工夫や換気の確保、そういったものを講じた上で給食の時間も会話を行うことが可能というような報道がされていたかと思えます。そこまで細かい部分が全部出たかどうかは把握していませんが、文科省の通知、また過日県で会議もございまして、感染状況を踏まえつつ地域の実情に応じた取組を検討ください、というところも加筆されております。現状では群馬県や本市の状況を見てもなかなかコロナの終息が見通せないという状況で、子どもたちの健康を第一に黙食の継続を行うということで学校には働きかけております。もちろん、今後の感染状況を見た上で、国や県の通知を踏まえた対応も本市でも考えてまいりたいと思えます。以上です。</p>
<p>堀口委員 教育長</p>	<p>ありがとうございます。 そのほか、いかがでしょうか。</p>
<p>木戸委員 教育長</p>	<p>はい、教育長。 はい、木戸委員。</p>
<p>木戸委員</p>	<p>19ページの(4)埋蔵文化財の発掘に関することに確認調査がありますが、現時点で何か発見されたものやわかったことがあれば教えていただければと思います。</p>

会議の経過

文化振興課長	はい、教育長。
教育長	はい、文化振興課長。
文化振興課長	<p>現在、市で野辺地区のほ場整備計画が進められていまして、その整備に伴う試掘・確認調査をこの度実施させていただきました。場所は野辺町の流通団地に広がる広大な農地になりまして、そこに幅80cmの掘削を行って、トレンチを6本ほど掘りました。6本のうち5本から遺物が確認されまして、中でも小林地区という地区では弥生、古墳、奈良、平安時代の土器や近世の陶磁器など200点程度が出土しております。また、弥生時代の住居跡も確認されました。弥生時代の住居跡については本市では大変珍しく、市内で2か所目の確認となっております。もう1か所は県が調査したらしいのですが、館林市が主として調査を行ってからは初めてということになっております。この小林地区は元々小林遺跡という遺跡が指定されていたのですが、今回の調査はその遺跡の外のエリアだったということもございまして、新たに遺跡のエリアを広げるなど、今後手続きが必要になってくるかと思われまます。非常に大きな発見という大きな言い方になってしまいますが、確認されているということです。今後、基本的に文化財は現在の土地でそのまま埋まっていることが理想なのですが、そのまま保存できるかどうかは経済部で行っているほ場整備計画と調整しながら、文化財保存の立場からコミュニケーションを取りながらいろいろ検討してもらいたいと思っています。以上です。</p>
木戸委員	ありがとうございました。
教育長	そのほか、いかがでしょうか。
木戸委員	はい、教育長。
教育長	はい、木戸委員。
木戸委員	<p>22ページの県民スポーツ大会秋季大会について、結果を調べさせていただいたら11市中館林市が7位ということで、サッカーやバレーなど上位の種目もあるのですが、参加していない種目もありまして、それですと加点が0点になってしまうのではないのでしょうか。バスケットや卓球、バドミントンなど比較的メジャーなスポーツにかかわらず参加していなかったようなので、参加したらもう少し上位に行けるのではと思いました。何か参加できない理由等があるのでしょうか。</p>
スポーツ振興課長	はい、教育長。
教育長	はい、スポーツ振興課長。
スポーツ振興課長	<p>結果の概要から説明させていただきますと、今大会では館林市から得点競技が12競技、オープン競技では1競技約200名の選手が出場いたしま</p>

会議の経過

した。その中で得点競技では柔道が準優勝、サッカーが第3位、バレーボールが男女共に第3位という成績がありました。また、オープン競技ではレスリングが優勝ということで、総合成績は市の部では7位となっております。本市では得点競技16競技中12競技に参加しておりまして、参加できなかった競技は今委員からお話がありましたように、バスケットボール、卓球、バドミントン、そのほかボーリングという形になっております。不参加の理由といたしまして、バスケットは県民スポーツ大会予選を兼ねた秋季大会が実施できなかったということがございまして、不参加となっております。また、卓球につきましては、年度当初からコロナ禍ということで年間の活動、各種大会の開催をしないということで、それに伴い予選会もできなかったことによる不参加となっております。バドミントンにつきましても同様に、コロナの影響で活動がなかなか思うようにできず予選会大会等もできなかったという話を聞いております。最後にボーリング関係ですが、これは市内のボーリング場が平成27年になくなってしまった時から休部という形になっていることから参加していない状況です。参考ですが、得点競技16競技に限れば県内12市中で全ての競技に参加できている市が前橋市、高崎市、太田市の3市となっております。その他の市では1競技から多いところだと6競技不参加という状況でございます。これはスポーツ競技人口の減少やコロナ禍によるスポーツ離れ等の影響かと思えます。今後、スポーツイベント等の再開にあわせて、本市といたしましても各競技団体のてこ入れも図っていければと考えております。以上です。

木戸委員 コロナの影響が大きいものが3つあるということですね。ボーリングに関しては市内にないという点ではどうしようもないので、仕方ないのかなというところですね。

教育長 そのほかでいかがでしょうか。

(委員から「なし」の声あり)

教育長 それでは、事務報告は記載のとおり承認するものとしてよろしいでしょうか。

(委員から「異議なし」の声あり)

教育長 異議なしと認め、記載のとおり承認するものとします。

次に、日程第5 その他で何かございますか。

金子委員 はい、教育長。

教育長 はい、金子委員。

金子委員 先日、公民館の年末大掃除に参加させていただいた時に思ったことです。

会議の経過

	<p>私は調理室担当で数名とお掃除をしまして、今はコロナ禍で使われていないのでそんなに汚れてはいなかったのですが、調理室は基本的に油を使う作業が多いと思います。拭き掃除などをしていて、水より汚れが落ちるかなとお湯を出そうとなった時に、蛇口を回しても水道からお湯が出てきませんでした。水しか出ないととても寒いと思うのですが、基本的に公民館ではお湯がない所が多いのでしょうか。</p>
生涯学習課長	はい、教育長。
教育長	はい、生涯学習課長。
生涯学習課長	公民館には給湯室が付いております。ただ、全館にあるかについては確認の上、お答えさせていただければと思います。
金子委員	<p>これからコロナ禍が終わって、こういった所に地域の方たちが入ってくると思います。できれば館を問わず、快適さなどを求めたらきりが無いとは思いますが、せめて調理室くらいはお湯が使えるような状態であってほしいというのが望みです。予算等いろいろあると思いますが、もし長い間にその予算を組めるような時があったらお願いしたいと思います。もう1つ、今年は子どもも所属しているグループの方たちに館長さんが声かけしてくださって、子どもたちと一緒に大掃除しました。大勢集まっても子どもの参加は今までなかったことなので、館長さんの働きかけが本当に良かったなと思いました。地域の人たちが大勢で協力しながらお仕事をする場を見せられたこと、いつも子どもたちと接する時、私たちは学校を介してボランティアやサポートをするしかなかったものですから、同じ目線で子どもたちと作業するというのは私たちにとっても新鮮でしたし、皆が協働して、地域の人たちと一緒に協力していることを体験させられたことがとても良かったです。これからもそういう機会があれば、手がかかる時もあるかもしれませんが、サポートしながら子どもたちをそういった場に連れて行ってあげたい、参加してもらいたいなとすごく感じました。</p>
生涯学習課長	はい、教育長。
教育長	はい、生涯学習課長。
生涯学習課長	金子委員のおっしゃるように、公民館活動において地域の小学校を含めた形での交流というのは利用する方たちにとっても有意義な機会だと思います。今後の公民館活動においてもそういったことを踏まえた上で進めてまいりたいと感じました。
教育長	年明け1月に館長会議がございますので、私の方でもその折に今のお話を紹介させていただいて、各館には少年教室があるものですから、子どもたちと一緒に活動することは可能かと思っておりますので、話をしたいと思

会議の経過

教育長

います。ありがとうございました。

そのほか、いかがでしょうか。

(委員等から「なし」の声あり)

教育長

ないようですので、以上で本日の全日程を終了します。

これにて教育委員会を閉会します。

(午後4時29分)